

## 第4章 胃内容調査

### 4.1 はじめに

クジャクは雑食性であり、穀物等の植物質のものから小型の爬虫類や哺乳類までも捕食することが報告されており (Baker, 1930; Ali and Ripley, 1978; Johnsgard, 1999)、沖縄県内の在来種を捕食している可能性がある。八重山地域の新城島および石垣島に生息するクジャクについても、これまでもおもに植物質を採食し、そのほかに昆虫類、クモ類、貝類を捕食していることが報告されている (環境省, 2005, 2008)、黒島においては、昨年度事業でおもに冬季捕獲個体について胃内容調査を行い、他の島嶼と同様に植物質を中心に捕食していたが (沖縄県, 2017a, 2018)、今年度は夏季・秋季の捕獲個体についても継続して胃内容調査を実施した。

### 4.2 方法

#### (1) 使用個体および器官

胃内容調査には、今年度本事業で実施したワイヤーおよび空気銃により捕獲した個体のうち、オス 10 個体・メス 20 個体の合計 30 個体を使用した。分析に使用した器官は素囊および筋胃 (図 4.1) とした。なお、小腸および大腸については内容物の判別が困難であることから分析から除外した。



図 4.1 切開されたクジャクの筋胃および内容物

## (2) 分析手順

そ嚢および筋胃は捕獲後すぐに摘出し、冷凍保存後、株式会社南西環境研究所に移送した。各試料を解凍後、器官を切開し、胃石を取り除いた後の試料をエチルアルコールで保存処理したのち、植物質および動物質に区分し重量を計測した。

## 4.3 分析結果

分析結果および代表的な捕食物の写真を表 4.1 および図 4.2 にそれぞれ示した。分析を実施した 30 個体のうち、植物質は全 30 個体(100%)、動物質は 6 個体 (20%) で検出された。なお、動物質はすべて昆虫類であった。また今年度の捕獲個体はすべて 80%以上が植物質として検出され、石垣島や新城島の報告と同様に、黒島のクジャクもおもに植物質を捕食することが示唆された。

なお、平成 30 年度事業で実施した胃内容調査で検出された爬虫類はサキシマハブである可能性が示唆された (戸田、私信)。また、海外においてもインドクジャクは爬虫類を捕食するとされていることから (Kumar and Aggarwal, 2014)、インドクジャクが黒島において希少爬虫類を捕食する可能性が示唆された。黒島においては、環境省レッドリストにて絶滅危惧Ⅱ類 (VU) およびレッドデータおきなわ (沖縄県、2017b) にて絶滅のおそれのある地域個体群 (小浜島、黒島) (LP) に分類されているサキシマカナヘビが平成 29 年度に発見されており、本種がクジャクにより捕食される可能性もあり、クジャク防除を継続していく必要があると考える。

表 4.1 クジャク胃内容物分析結果

個体番号	地点番号	性別	植物質		昆虫類		飼料		合計
			重量 (g)	割合	重量 (g)	割合	重量 (g)	割合	重量 (g)
1	#013	メス	18.6	95.9%	0.8	4.1%	0.0	0%	19.4
2	#044	オス	8.9	94.7%	0.0	0.0%	0.5	5.3%	9.4
3	#030	メス	17.3	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	17.3
4	#030	メス	3.2	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	3.2
5	#030	メス	24.5	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	24.5
6	#030	メス	5.4	84.4%	1.0	15.6%	0.0	0%	6.4
7	#024	メス	20.8	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	20.8
8	#024	メス	4.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	4.7
9	#024	メス	11.4	100%	0.0	0%	0.0	0%	11.4
10	#033	メス	30.8	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0%	30.8
11	#033	メス	9.9	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	9.9
12	#033	メス	8.2	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.2
13	#029	メス	4.3	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	4.3
14	#045	オス	22.1	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	22.1
15	#028	メス	24.3	88.4%	1.2	4.4%	2.0	7.3%	27.5
16	#011	メス	34.9	99.4%	0.2	0.6%	0.0	0.0%	35.1
17	#013	オス	17.3	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	17.3
18	#038	メス	13.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	13.7
19	#002	オス	8.9	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.9
20	#003	オス	22.9	99.6%	0.1	0.4%	0.0	0.0%	23.0
21	#009	オス	14.9	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	14.9
22	#009	オス	12.5	99.2%	0.1	0.8%	0.0	0.0%	12.6
23	#024	メス	15.9	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.9
24	#033	メス	25.6	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	25.6
25	#022	メス	16.9	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	16.9
26	#011	メス	11.3	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	11.3
27	#013	オス	61.6	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	61.6
28	#038	オス	17.1	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	17.1
29	#025	メス	35.8	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	35.8
30	#010	オス	25.5	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	25.5



図 4.2 代表的な動物質胃内容物（数字は捕獲地点番号を表す）

#### 4.4 引用文献

- Ali, S. Ripley, S.D. (1978) Handbook of the birds of India and Pakistan. Vol (1), Oxford University Press, New Delhi.
- Baker H.R. Inglis, C.M. (1930) The birds of southern India, including Madras, Malabar, Travancore, Cochin, Coorg and Mysore. Madras Government Press, India.
- Johnsgard, P.A. (1999) The Pheasants of the World: Biology and Natural History. Washington, DC: Smithsonian Institution Press.
- Kumar A., Aggrwal S.G. (2014) Ecology and Biodiversity Status of Sachin GIDC and Its Surroundings with Special Reference to Conservation Measure for Indian Peafowl (*Pavo cristatus*) Schedule-I Bird Speceis. Octa Journal of Environmental Research. 2, 82-100.
- 環境省. (2005) 平成16年度西表国立公園における移入鳥獣対策調査報告書.
- 環境省. (2008) 平成19年度西表国立公園における外来鳥獣対策調査報告書（グリーンワーカー事業）.
- 沖縄県. (2017a) 平成28年度外来種対策事業（クジャク対策）報告書.

沖縄県. (2017b) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版動物編-レッドデータおきなわ-

沖縄県. (2018) 平成29年度外来種対策事業（クジャク対策）報告書.